PRESS RELEASE

株式会社 山下設計
YAMASHITA SEKKEI INC.

2021年1月29日

山下賞２０２０について

当社では、組織力の向上と設計品質を高めることを目的として、社内表彰制度「山下賞」の活動を行っております。

本年度は、「社会の様々な課題に応答し、新しい価値を生み出す建築デザイン」をテーマに議論を行い、山下賞（作品）2点、特別賞3点を選定いたしました。

山下賞（作品）

GREEN SPRINGS（グリーンスプリングス）

志太広域事務組合斎場会館 星山の苑

以上2作品

特別賞（作品）

伊予市文化交流センター「IYO 夢みらい館」

太平洋精工株式会社 新本社工場

東レ未来創造研究センター　融合研究棟

以上3作品

〈 本件に関するお問い合わせ先 〉
株式会社山下設計　広報室　TEL:03-3249-1581
〒103-8542　東京都中央区日本橋小網町6-1

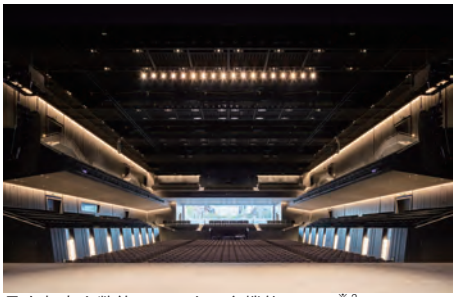
山下賞（作品）

GREEN SPRINGS（グリーンスプリングス）

街区全体を見下ろす .1 階に駐車場を集約し、2 階の人工地盤中央に約 1ha の広場を設け、各棟はそれを囲むように配置されている。※1

都心と自然が交差する立川の特徴を活かした独自性・持続性の高い大規模複合施設。※2

軸線に沿って様々なシークエンスを体感できる広場※1



最大収容人数約 3000 人の多機能ホール※2

マスターデザイン / アーキテクト：スタジオタクシミズ
マスターデザイン / ランドスケープアーキテクト：ランドスケープ・プラス
撮影：※ 1 根本健太郎写真事務所 / ※ 2　エスエス東京

所在地　：東京都立川市
用　途　：事務所・飲食店・ホテル・物品店・劇場
　・サービス店舗・保育所・自動車車庫
建築主　：株式会社 立飛ホールディングス
設計者　：（A-2 地区）山下設計・大林組設計共同体
　（A-3 地区）山下設計
構　造　：（A-2 地区）S・RC・CFT 造
　（A-3 地区）SRC・S・RC 造
規　模　：（A-2 地区）延べ 64,434.16㎡
　地下 1 階 地上 11 階建て
　（A-3 地区）延べ 11,863.25㎡
　地上 4 階建て

立川市に建つ、ホール・ホテル・オフィス・ショップ・レストランなどが複合したプロジェクト。緑と人と建築が融合する快適な場が実現されている。中央の広場には、様々なシークエンスが用意され、訪れる人々が思い思いに時を過ごせるパブリックスペースとなっている。

１つの街区を刷新する大規模プロジェクトであり、企画・設計・施工・運営に関わる全ての関係者が、つくるべき価値を共有することで、質の高い建築が実現されている。

山下賞（作品）

志太広域事務組合斎場会館 星山の苑

西側外観.

施設中央の光庭よりエントランスをみる．左はガラスで仕切られた炉前空間.

撮影：川澄・小林研二写真事務所

所在地　：静岡県焼津市
用途　：斎場
建築主　：志太広域事務組合
構造　：RC 造 +S 造
規模　：延べ 4,722㎡
　地上 2 階 塔屋 1 階

斎場建築に求められる運営と技術の最適化と、地域の葬送文化との融合が密度高く実現された力作である。中央を横断するスリット上の光庭がこの建築の肝であり、「地域に開かれた斎場」というコンセプトのもと、ガラス張りの炉前空間を実現している。同時にこの光庭は、S 造・RC 造の構造形式の分岐として複雑な地盤特性を解決するとともに、地中ガスの流路にもなるなど、意匠・構造・設備の統合が図られている。

特別賞

伊予市文化交流センター「IYO 夢みらい館」

北側より見た遠景．皿ヶ峰連峰を背景に．　撮影：髙橋菜生写真事務所

内観写真．モールの吹抜け．　撮影：髙橋菜生写真事務所

図書館、ホール、公民館機能からなる文化交流施設。一つの大屋根の下に、大人・高齢者から次世代を担う子ども達が集い、多様な市民活動が行われるというコンセプトが実現されている。遠景から見ると地域の新たなシンボルとしての表情を見せる大屋根は、近景では軒が低く抑えられて周辺の低層住宅と調和し、内部に多様な居場所を生む装置となっている。

所在地　：愛媛県伊予市
用途　　：図書館・ホール
建築主　：伊予市
構造　　：SRC 造 +S 造
規模　　：延べ 5,868 ㎡
　　地上 3 階 塔屋 1 階

特別賞

太平洋精工株式会社 新本社工場

外観．東側より新本社工場を見る．　撮影：SS 名古屋

内観．コモンスペース：フォーマル・インフォーマルコミュニケーションの中心となる．　撮影：SCHAFT（シャフト）

所在地　：岐阜県大垣市
用途　　：工場、事務所
建築主　：PEC ホールディングス株式会社
構造　　：SRC 造 +S 造
規模　　：延べ 32,967㎡
　　地上 3 階

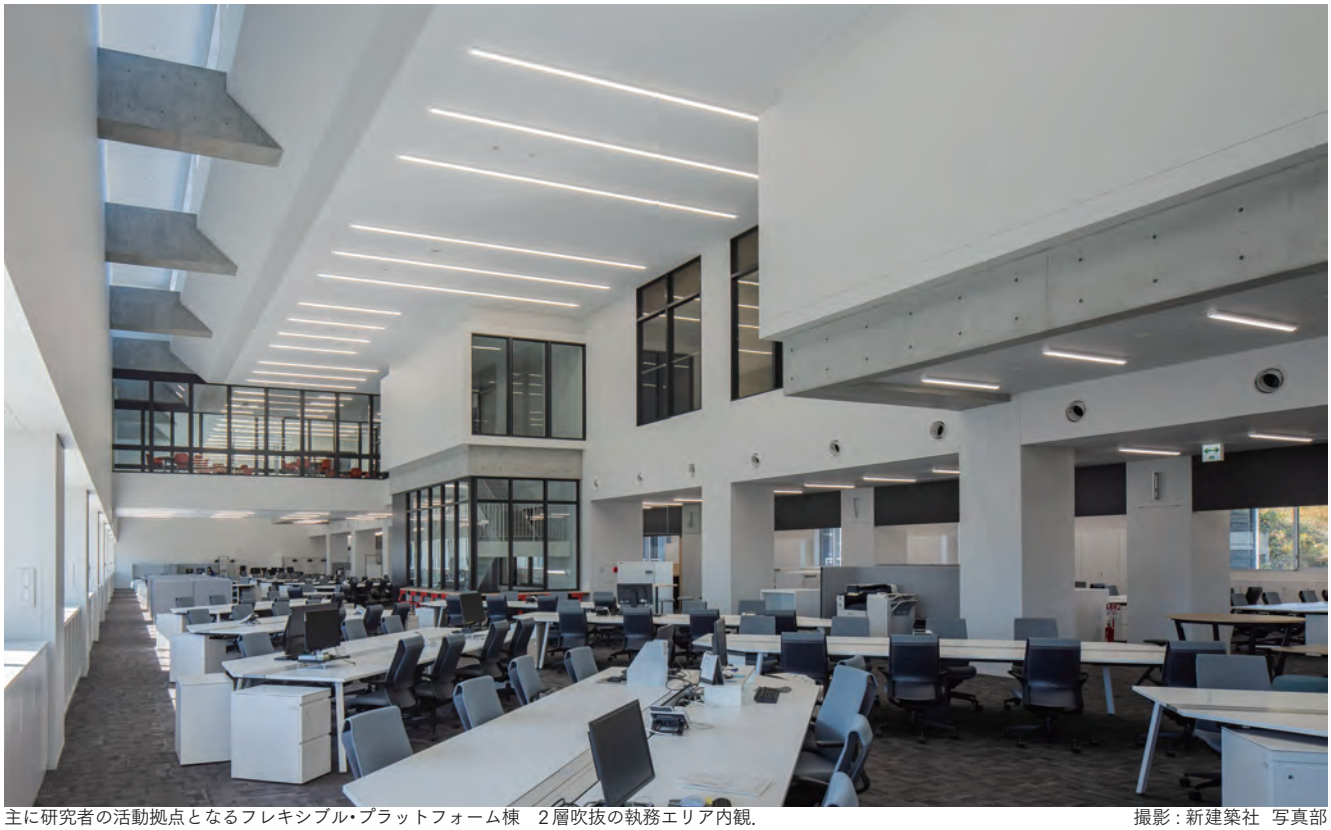
工場とオフィスという 2 つの異なる機能の一体化により、生産性と知的創造性の向上の両立を図ったプロジェクト。法的条件や生産工程との整合性を丹念に整理して空間の最適化を行うとともに、社員とのワークショップを経て豊かなワークプレイスを実現している。

また、既存工場跡地を公園として整備して市民に開放するなど、地域と企業の共生を図っている。

特別賞

東レ未来創造研究センター　融合研究棟

主に外部機関との連携機能を担うコミュニケーション・コンコース棟　東側外観.　撮影：新建築社　写真部



主に研究者の活動拠点となるフレキシブル・プラットフォーム棟　2層吹抜の執務エリア内観.　撮影：新建築社　写真部

所在地　：滋賀県大津市
用途　：研究施設
建築主　：東レ株式会社
構造　：RC 造 一部 S 造
規模　：延べ 8,337㎡
　　地上 4 階

炭素繊維等の先端素材を開発する東レの研究施設。駅の空間構成にヒントを得たコンコース、プラットフォームによる分棟の配置が、持続性・拡張性・更新性を高めている。

クライアントの企業文化を的確に捉えたワークプレイスや、信頼性・機能性の高いユニットラボシステムの採用など、非常に緻密に計画された建築となっている。